

ガーナ共和国話題集

【国名】

- 8～11世紀にサハラ砂漠南縁（現在のマリ、モーリタニア周辺）を中心にサハラ交易で栄えた旧「ガーナ王国」に由来。

【国旗】

- 赤：独立のための戦いで流れた血を、黄色は金鉱山に代表される豊かな地下資源を、緑色は豊かな森林と実りある農業を象徴する。
- 中央の黒い星は、アフリカ独立運動の父と言われるガーナ初代大統領のエンクルマ、及びアフリカの自由・統一を象徴している。



ガーナ国旗

【国土】

アフリカ大陸西部ギニア湾に面する沿岸国。面積は日本の約3分の2（約23.9万km²）。首都はアクラ。人口は約3,100万人。



【建国の父エンクルマ他の「ビッグ・シックス」】

- ガーナ独立の象徴として広く知られているクワメ・エンクルマを含め、独立の立役者「ビッグ・シックス」6人の肖像がガーナの紙幣に印刷されている。（エンクルマは左上に掲載）
- エンクルマは1909年生まれ。渡米して勉強する中でアフリカ人留学生を指導する運動家として頭角を表した。英国滞在を経て、第二次世界大戦後に帰国し、植民地からの即時独立を求めて会議人民党（CPP）を結成。独立運動の先頭に立ち続け、1957年の独立に際して初代首相に就任した。

【アナン元国連事務総長】

- 1997～2006年に第7代国連事務総長を務めたコフィ・アナン（2018年8月18日逝去）は、ガーナ出身。出身地クマシにある科学技術大学を卒業。先般アクフォ＝アド大統領の下で国葬が取り行われた。
- ガーナに設立され、西アフリカにおける中心的なPKO訓練施設の一つである「コフィ・アナン国際平和維持訓練センター」（KAIPTC）の活動を日本は2008年以来支援している。

【野口英世博士とガーナ】

- 野口英世博士は、ロックフェラー研究所研究員だった1927年11月、アクラに上陸し、黄熱病研究を行ったが、翌1928年5月、自身も黄熱病に罹患してガーナで他界した。

- 首都アクラ市内のコレブ病院内には、野口博士が実際に



使用していた研究室が残されており、遺品の展示も行われている。

- 2018年11月、ガーナの日本大使館前の通りを「野口英世博士ストリート」と命名。



【野口記念医学研究所】

- 1979年、我が国の無償資金協力により野口記念医学研究所（通称：野口研）がガーナ大学内に設立された。同研究所では、我が国の専門家による感染症対策等の技術協力を活発に実施している。2019年は、野口研設立40周年。
- 2014年に西アフリカ地域でエボラ出血熱が大流行した際には、地域を代表する研究機関としてエボラ撲滅に貢献した。
- 2018年9月、無償資金協力により建設していたBSL（バイオセーフティレベル）3を備える野口研先端感染症研究センターの建物が完成。
- 2020年、ガーナ国内の新型コロナウイルス感染症のPCR検査数のうち、ピーク時には約8割を野口研で担った。

【野口英世アフリカ賞】

- 2006年5月、小泉総理のガーナ訪問時、「野口英世アフリカ賞」の創設を発表。
- これまで、2008年5月のT I C A D IV、2013年6月のT I C A D V、及び2019年8月のT I C A D 7の際に第1回、第2回、第3回授賞式を開催。T I C A D 8の開催に合わせて、第4回授賞式を開催予定。

【福島・猪苗代町との縁】

- アクフォ＝アド大統領は、2018年12月の訪日中、野口博士の生家がある福島県猪苗代町を訪問。
- なお、東日本大震災発生時、野党党首であった同大統領は、震災発生の3日後に、弔意を表すためにガーナの日本大使公邸を訪問。

- 猪苗代町は 2021 年の東京オリンピックの際のガーナのホスト・タウンとして登録されている。

【オリンピックとガーナ】

- 1964 年の東京オリンピックでは、ガーナはボクシングで銅メダル獲得（エディ・ブレイ選手）。また、日本とガーナはサッカー・グループリーグにて対戦、ガーナが 3 対 2 で勝利している。
- その他、夏季オリンピックでは、1960 年（ローマ）のボクシングで銀メダル、1972 年（ミュンヘン）のボクシングで銅メダル、1992 年（バルセロナ）でのサッカーで銅メダルを獲得。

【カカオとチョコレートと日本企業】

- ガーナは、カカオ豆の生産拠点として、コートジボワールに次いで世界第2位。石油、金に次いでガーナの主要輸出品目となっている。ガーナ産カカオ豆は、他国産のカカオに比して品質が良いといわれる。
- 我が国のカカオ豆の7割以上は、ガーナからの輸入である。多くの日本企業がガーナ産のカカオ豆を使用しており、ガーナでの社会貢献事業にも取り組んでいる。

【ガーナ料理】

- 伝統的な主食は、ヤムイモ、キャッサバイモ、プランテーション（いわゆる食用バナナ）など。
- 伝統的なガーナ料理としては、フフ（茹でたヤムイモ、キャッサバイモ類やプランテーションバナナを、日本の餅つきのように杵と臼で搗いてつくる。）やケンケ（トウモロコシの粉を水で溶き発酵させペースト状にし、バナナの葉等で包み煮込んだもの）等がある。
- 近年は米も重要な主食となりつつあり、アシャンティ州、ノーザン州において、米の生産性向上等を目指すJICA技術協力プロジェクト「天水稲作持続的開発プロジェクト」を実施中。

【アチュワ村のパイナップル】

- 1986年、青年海外協力隊の武辺寛則（たけべひろのり）氏が、アチュワ村（ガーナの首都アクラから西に120km）にて、パイナップルファームプロジェクトに着手。
- 武辺氏は、活動期間中に27歳の若さで事故死してしまいが、その後、アチュワ村のパイナップル栽培は、欧州にも輸出されるなど村の収入源として定着。同村には「タケベガーデン」と名づけられた記念公園が建設され、慰霊碑も建てられた。

（了）